

JICA (PC) 第 8-07001 号
平成 18 年 8 月 7 日

環境社会配慮審査会
委員長 村山 武彦 殿

独立行政法人 国際協力機構
理事 黒木 雅文

環境社会配慮審査会への諮問について

JICA 環境社会配慮ガイドライン 2.4 の規定に基づき下記事項につき諮問いたします。

記

1. 件名
諮問第 2 号「フィリピン共和国 Cavite-Laguna 東西道路事業化促進調査」
2. 諮問事項
最終報告書案における環境社会配慮関連事項の記述について
3. 資料・報告書
開発調査「フィリピン共和国 Cavite-Laguna 東西道路事業化促進調査」
(Feasibility Study) の最終報告書案 (Draft Final Report)

以 上

平成18年8月31日

独立行政法人 国際協力機構
理事 黒木 雅文 殿

環境社会配慮審査会
委員長 村山 武彦

諮問第2号に対する答申について

環境社会配慮ガイドライン 2.4 の規定に基づき、諮問第2号「フィリピン共和国 Cavite-Laguna 東西道路事業化促進調査」(Feasibility Study) の最終報告書案 (Draft Final Report) における環境社会配慮調査について、別紙のとおり答申いたします。

コメントの種類に応じて、答申内容を協力事業に反映するよう、お取り計らい下さい。

以 上

コメント

1. 最終報告書案全体に関して

第1回目の諮問（代替案設定、最適事業案選定方針の妥当性と環境社会配慮調査のスコーピング案）への対応が最終報告案に織り込まれていると評価する。

2. 道路網整備シナリオについて

広域幹線道路網混雑の環境への負荷を軽減するために、域内経済の活性化を促進するシナリオを選定しているが、その評価指標を人口、就業人口、就学人口、自動車保有台数の増加率で議論している。これらの指標で経済の活性化を評価できる事を先ず明記し、隣接するマニラ首都圏との比較についても言及すること。（要望）

3. 公害対策について

大気汚染、水質汚濁、騒音・振動については、建設時及び供用時に分けて予測・評価、環境保全措置の検討、環境モニタリング計画等の検討を行っているが、確認のために調査時の数値情報等を再度精査すること。その際には、測定・評価の結果を環境基準などの目標値と照らし合わせ、必要な対策の内容を十分に検討した上で具体的策を提言するとともに、その対策を講じた場合に予想される効果についても定量的に言及しておくこと（特に供用後の環境保全措置）。

また、環境保全措置については、現地での他の道路に於ける措置と比べ、費用対効果の高い措置を講ずること。（要望）

4. 住民移転世帯のインベントリー調査について

予備情報収集としての調査範囲を道路用地端から両側10mの余裕幅内としているが、FSレベルの線形計画でのコリドーとして、非常に狭く感じられる。Right of way（ROW）が30～50mであるのに対し両側で20mとした理由とその妥当性をどこかに記述すること。（要望）

以上